

分科会「言葉とコミュニケーション」

オフィスのぶ企画 佐々木信行

ピープルファースト愛知 安井慎一

今年のテーマは「仲間(友人)としての『なかま』」

今年の分科会のテーマは、ピープルファースト大会の実行委員会で思いつきました。話し合っているなかで「仲間どうし話すこと」が何よりも大切なことに改めて気が付きました。ピープルファーストを始めたときは、会議よりも「バトル」みたいなことをやっていました。話し合いというより「自分のこと」を一人ひとりが勝手に話していました。バラバラみたいでしたが、何だか「一つに向かっている」感じがしていました。

このようなことを皆さんと話してみたいと思っています。普段から考えているけれど、なかなか言えない仲間もきつといるから、面白い分科会になると思います。ピープルファーストでは難しい話をすることもあるけれど、この分科会では、誰でも分かる楽しい「話をする場」を皆さんと作っていきたいと思います。自分のことは自分が一番分かります。誰もが「代弁」をしたらダメだと思う。どんなに時間をかけても当事者の声が大事です。

今年で東日本大震災から6年目になります。あるTV番組で「奇跡の一本松」のことをやっていました。私たち外の人間にとっては「奇跡の一本松」ですが、林があったことを知る地元の人たちから見れば「奇跡」とは言えません。同じように「知的障害者」といくら言われても、大切なのは、自分がどう思うか、どう感じるかが一番大切なのです。